

記事に関するワークシートに取り組む児童



青葉小学校(霧島市)

意見まとめる力育む

実践校1年目は、10月から朝活動の時間に月に1回、全学年で取り組む15分間の「NIEタイム」を設けた。記事から得たさまざまな情報をもとに自ら考え、意見をまとめる力を育むことが狙いだ。

2月の活動では、5年生は南日本新聞の教育支援サイト「みなみEdu」のワークシートを活用。空を飛ぶ車の有人試験と、小学校での防災訓練に関する記事を音読した後、シートに設

問の答えや感想を書き込んだ。堀川結衣さんは「新聞は普段読む本より難しいけど、知らない情報が書いてあって楽しい」と語る。

校内には、いつでも立ち読みできるよう廊下に4カ所の新聞コーナーを設置する。NIE担当の中村真也教諭(38)は「児童は難しい言葉や文章に慣れていた段階。自分の考えを文字にして伝えるできるように、活動を続けていきたい」と力を込めた。(上柚元大輔)

外国人技能実習生にインタビューする生徒



指宿高校(指宿市)

身近な課題に気付く

実践校1年目は、2年生の総合的な学習の時間で取り組んだ。課題研究を深める手段として、新聞記事のスクラップを役立てた。

生徒は年度初めに決めた課題研究のテーマを基に、経済、医療など5分野のグループごとに活動。空き教室に置いた新聞の記事を当番でスクラップし、新たな視点を取り入れたり、資料に使ったりした。

前田真之介さん、前園ももかさん、山野茉央利さんも

は、外国人との共生について調べた際に、地元で働く外国人技能実習生に注目。山川のかつお節工場で働くベトナム人にインタビューをして、理解を深めた。研究結果は、県主催の政策アイデアコンテストで奨励賞を受けた。

指導する萩田英和教諭(30)は「新聞を通して生徒たちが地域の身近な課題に目を向け、社会問題として意識するようになった」と評価した。(北村茂之)